

豊見城中央病院 第4回 災害訓練 開催報告

2019年12月21日(土)、豊見城中央病院では第4回災害訓練を行いました。

当日は、糸満市内の直下型地震を震源とする震度6強の地震発生を想定。

地震発生直後に災害対策本部の立ち上げを行い、次いで各エリア(トリアージ、赤、黄、緑)の立ち上げ、院内各部門の被害状況の把握や外部からの情報収集、負傷者受け入れの訓練を行いました。

今回は、患者受け入れ後に各エリアと本部をつなぐ現場指揮所の場所を、前回の災害対策本部隣ではなく、各エリア近くに設置しました。そうすることで、各エリアから現場指揮所へ情報がすぐ届き情報把握がしやすくなりましたが、情報が集まりすぎて情報処理がスムーズにできず、現場指揮所から本部への連絡が遅れるという課題も出ました。

一方で、災害発生から本部設置、各エリア設置、緊急手術や入院の手配などはスムーズに行うことができました。

今年度からは災害対策委員会も立ち上げていますので、委員会内でも積極的に振り返り・検討会などを行い、ことし6月に移転・開院する友愛医療センターでの災害訓練に向けて今後ブラッシュアップを図っていきます。

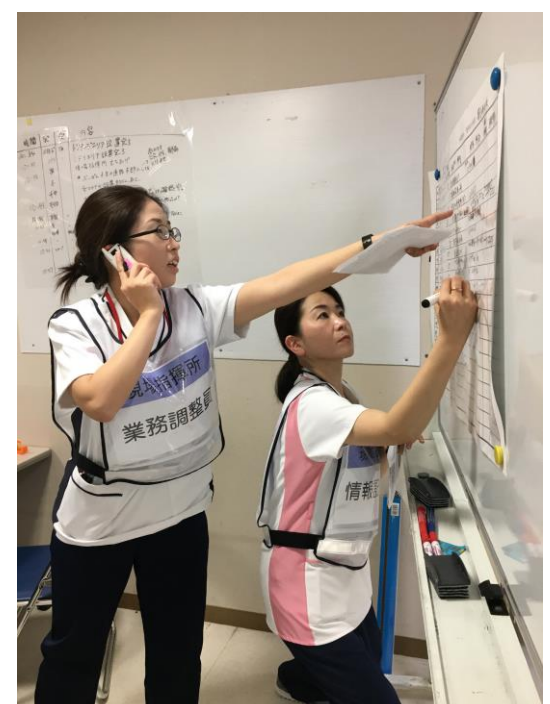
また、職員一人ひとりが日頃から災害に対する意識を高め、災害時にもしっかりと病院機能を維持できるよう病院全体で努めてまいります。

【当日の様子】

災害対策本部



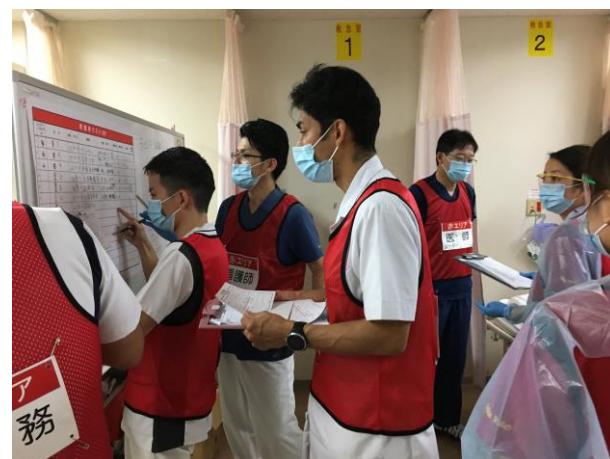
現場指揮所



トリアージ エリア



赤エリア



黄色エリア



緑エリア



備蓄食



訓練終了後、職員で備蓄食の試食会も行いました。

ありがとうございました。

当日は、那覇看護専門学校（ナハカシゴ）の学生20人にもボランティアとして参加いただきました。
ご協力いただき、どうもありがとうございました。

災害訓練終了後、豊見城中央病院看護部 有銘淳子部長（写真右）から那覇看護専門学校の久志篤子学校長へ感謝状が手渡されました。



*** 災害拠点病院 ***

災害拠点病院とは、地域の医療施設を支援する機能等を持つ、災害時に拠点となる医療施設のことです。

豊見城中央病院は2015年6月、沖縄県より災害拠点病院の指定を受けました。

災害拠点病院の役割としては、以下のようなものがあります。

- ◎重篤救急患者の救命医療を行う
- ◎広域搬送に対応する
- ◎地域医療機関への資器材貸し出しを行う
- ◎被災地域外の場合は被災地へDMAT(災害派遣医療チーム)を派遣する